

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099900054		
法人名	株式会社 よろこび		
事業所名	グループホーム よろこび (2)		
所在地	〒824-0512 福岡県田川郡大任町大字大行事4125番地1 TEL 0947-63-3555		
自己評価作成日	令和05年12月05日	評価結果確定日	令和06年02月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	令和06年02月05日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

徐々に外出行事等も再開しており、以前のような生活様式に戻りつつあります。令和5年2月にコロナウイルス感染症にてクラスターとなり、職員が疲弊しきっていた際、ご家族様が毎日差し入れを持ってくださったりと、施設、入居者様、ご家族様の関係は良好です。職員間の風通しもよく、お互いに意見を言いあえ、受け入れ、改善をしていく姿勢があります。周辺は田畑に囲まれ、自然豊かで落ち着いて生活することができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内3箇所に基本理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。朝礼時に勤務者全員で唱和し、理念に基づいたケアを行うように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	インフルエンザ、コロナ対策のため外部との交流は少ない。運営推認会議、面会は再開しているため、今後は交流が持てるよう務める。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学校に出向き認知症の講義などを年1回程度ではあるが行っている。		
4	3	○運営推認会議を活かした取り組み 運営推認会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症が5類となってから、再開はしているが、近隣でインフルエンザが蔓延したりと、資料配布という形になってしまったこともある。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、市町村、社会福祉協議会担当者とは、必要に応じ相互に相談、報告、協力をできる体制を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、19時以降は施錠しているが、日中は開放している。利用者が外に出たいときは、一緒に出かけるようにしている。身体拘束をしないケアについては、日頃より職員会議、内部研修、ヒヤリハット報告時、身体拘束廃止委員会等で見直しを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づいた内部研修を実施し、正しい理解と共有を図る。日頃より入居者様の人権を尊重した対応を心掛け、虐待が発生しない環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで制度を利用した例はないが、今後必要となったときには迅速に対応できるように、日常生活自立支援事業、成年後見制度について資料を用いて研修を行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者が十分な説明を行い、理解、納得をさせていただいている。入居時に不明なことがあれば相談に応じ説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、意見が要望があった際には、意向に沿うように努めている。ご家族には、来所持や不定期に電話等をし、状況報告する際には意見・要望を聞いている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は毎月の職員会議で聴取したり、日々管理者、副主任が聞くようにしている。必要に応じて即時に代表者に相談報告し改善努力に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ、職員と面談を行っている。年に3回勤務評価を行っている。それに基づき、職務状況の把握、就労条件の改善に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢での制限は行っていない。希望する研修や資格取得に向けての支援も行っている。外部研修へも希望に応じ参加している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	倫理や虐待防止の研修を行っている。ヒヤリハット報告時には即座に対応策を検討し、自己を未然に防ぎ、人権・尊厳を守る対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月行い、トレーニングの機会としている。外部研修にもお知らせがあれば参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前と比べると交流は減ったが、外部研修参加時などに相談、情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に病院や自宅に出向き本人の気持ちを聞いたり、生活している環境を把握するように努めている。また、施設見学に来てもらい、雰囲気を感じていただくようにしている。ご家族様、関係者様からも情報を集め入居後スムーズに施設での生活に慣れていただけるよう環境整備を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族と話す機会を多く持ち、ご家族様の不安や意向をしっかりと聞くようにしている。入居後は来所持や月一回のお手紙、必要によっては電話にて生活状況を伝えている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前よりご本人様、ご家族様、職員が話し合い、ニーズに基づいた支援内容を検討し、サービス提供ができるよう努めている。入居後に気づいたことがあれば、すぐに支援内容の見直しを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話を大切に、何を思い、何を感じているのかを考えながら接している。何でも言える関係性を築けるように努力している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子は面会時や毎月のお手紙でお伝えしている。協力ができることがあればお願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は再開しているが、以前より往来の機会が減っている。なじみの場所や知人の話を持ち出したりし、人や場所を様な話をするよう心掛けている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝礼や、職員会議の際に利用者同士の関係性を把握し、相性を考慮し事前にトラブルにならないよう配慮している。利用者同士で声を掛け合いお手伝いやレクリエーション、体操を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者へのご家族へ年賀状や暑中見舞い等を送っている。必要に応じ電話連絡も行っている。近隣に寄った際には施設にご家族様が顔を出していただくこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、利用者の思いや気持ちの把握に努めている。意思表示が難しい場合には表情や動作で気持ちを汲み取るように努めている。ご家族様とも相談をし、その人らしい生活が送れるように支援している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より生活歴を利用者様、ご家族様、関係者様から聞き取り、情報収集を行い、入居にいたるまでの経過を把握するようにしている。入居後は日々の会話から生活歴を把握するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の望む生活を尊重し、日々少しでも変化や気づきがあれば記録し、申し送り等で職員間の情報共有を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の職員会議にて個々の課題を出し合っている。また、面会時にご家族様からも意向を伺ったり、医療関係者からのアドバイス等を反映させ、介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録を行うよう努力している。日々変化を職員間で共有し計画見直しに反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況の変化を把握し、職員間でその都度話愛をし、その時々に必要なケアを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所以前のかかりつけ医は入所後も継続して利用する対応をしており、安心、安全に暮らしができるよう地域資源を活用している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	極力入居前にかかっていた病院に現在も受診している。ご家族様が同行される場合もあり受診時に心身状態を報告し、ご家族様も納得の上で適切な医療を受けられるよう主治医と連携を行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護による体調管理を行っている。緊急時や相談時には常時対応してもらっている。相談しやすい関係であり連携が取れている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者に早急に情報提供が行えるよう入院時はご家族とともに病院に行き、主治医、担当看護師、ソーシャルワーカー等と面談している。早期退院と円滑な受け入れができるよう頻りに訪問したり電話による近況報告を受けたりしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針の作成、急変時及び終末期における医療や介護に関する事前調査書での意思確認を行うようにしている。終末期にはチーム支援を行えるよう体制作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応についての研修を行っている。また、日頃少しでも体調変化が見られた場合には、急変時の対応について検討している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	建物外への避難誘導、消火訓練を実施。大雨による河川氾濫については地域の状況、感染対策に配慮した避難場所の確保、町村や地域の方と協力し検討を重ねている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念を基に人権やプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。日頃より個々に応じたその時々の言葉かけ等を職員間で話し合い、対応をしている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の機会を多く持ち、個々の思いを理解するように努めている。言葉が上手にでない方には「はい」「いいえ」で答えられるように問いかけたり、表情を見て接している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や心身の状況に応じ、その時々にしたがいたいことを尋ね、希望に沿えるように支援している。言葉に出せない方には表情や動作を見て接している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる方は自分で選んでいる。自分で選べない方はTPOに合わせた洋服に着替えている。お化粧が好きだった方には外出や行事のときにお化粧をしていただいている。希望時には美容院に来てもらったり、商品を買に行ったりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べていものと一緒に考えたり、旬なものをメニューに取り入れたりしている。リクエストに合わせてお菓子を作ったりもしている。下膳ができる方は下膳の協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事量や形態に配慮している。バランスの良い食事となるよう献立を作成し、使用した食材を記録している。水分量のチェックも行い管理している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医に個々に応じたケアのアドバイスを受けている。毎食後、個々に応じ、歯間ブラシやスポンジ、口腔ケアウェットティ等を使い口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タブレット端末を使用し排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。入居時昼夜トイレで排泄をすることで、おむつ使用量が減っている方もいる。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜多めの食事提供に心掛けている。水分量もチェックし適度な水分を取っていただくよう支援している。個別でヤクルトを飲んでいる方もいる。便秘傾向の方は主治医や訪問看護師と相談し、下剤の調整を行うこともある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴している。本人希望の時間帯に合わせ、毎時間調整している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状態に応じ、居室やソファで休息できるようにしている。夜間不眠の場合は、日中の過ごし方について朝礼や職員会議時に検討し、支援に取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳をいつでも確認できるように事務所に設置している。薬の追加や変更時は薬効・副作用・用法・用量等を端末申し送り欄に記載し情報共有している。薬チェックリストを活用し、投薬間違えがないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や嗜好を考慮し、状態に応じた活動を行うようにしている。ご家族の協力もあり、楽しく過ごせるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事は徐々に再開している。天気の良い日は外を散歩したりドライブに出かけたりしている。外食も今後は再開していきたい。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己保持希望の方は自己にて保有し病院代、買い物のお支払いを自分でできるよう支援している。本人様のお財布にお金を補充する際には必ず財布内にいくら入っているのかを報告していただき、お金を使った際には領収書をご家族に渡し使途不明金がないようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2名が携帯電話を所持し使用している。電話をかけてほしいと希望される方には都度職員が電話をかけて話してもらったり、利用者様のかわりに要件を伝達したりしている。本人宛の手紙が届いたときには本人に手渡したり、代読している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度計で室温や、湿度に注意し必要に応じて調整をしている。換気により寒さや暑さを訴える方がいる場合は窓を開ける場所を工夫したり一時的に場所を動いてもらったりと協力していただいている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの食堂やテレビ前のソファ、自室似て自由に過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人ご家族様から意向を聞き、馴染みのものを持ち込んでいただくようお願いをしている。本人、ご家族様の希望で模様替えをすることもある。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の居室扉には手作りの表札をつけ、トイレ等もわかるように表示している。歩行器、押し車使用の方もいるので、スペースはなるべく広く取るようにしている。		